

船舶事故調査報告書

令和3年10月6日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和2年7月22日 21時30分ごろ
発生場所	宮崎県延岡市延岡新港東方沖 延岡新港南防波堤北灯台から真方位135° 1,350m付近 (概位 北緯32° 31.0′ 東経131° 42.5′)
事故の概要	プレジャーボート第2隆祐丸は、南西進中、転覆した。
事故調査の経過	令和2年8月6日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第2隆祐丸、5トン未満（長さ2.85m）
船舶番号、船舶所有者等	294-25568宮崎、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 1、視界 良好 海象：波高 約1m 日没時刻：19時18分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、釣りを行った後、帰港することとして19時30分ごろ釣り場を発進し、約3～4ノットの対地速力で航行した。</p> <p>船長は、延岡新港が見えてこないため、デッキライトの明かりで前方を照らしながら陸岸の街明かりに沿って南西進を続けていたところ、自船の前約10mのところに岩があることに気付いたとき、左舷側に見えた岩場の返し波を左舷船首方から受けて波が船内に流入する状況となったので、波から離れようと右舵を取ったところ、本船は、右舷側に傾斜して転覆した。</p> <p>船長は、自力で船底に上がり救助を待っていたところ、翌日、付近を航行中の漁船に救助された。</p> <p>船長は、固型式の救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、本事故発生場所付近を航行するのは初めてであり、日没前に帰港できるよう、早めに帰航を開始しておけばよかったと本事故後に思った。</p>
分析	本船は、日没後まで釣りを続けて帰航の開始が遅れ、延岡新港に帰港中、船長が、自船の位置を正確に把握できないまま南西進を続け、岩場に接近したことから、左舷船首部から岩場からの返し波が船内に流入し、右舵を取った際、右舷側から海水が流入し、右舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。

原因	本事故は、夜間、日没後まで釣りを続けて帰航の開始が遅れ、本船が延岡新港に帰港中、船長が、自船の位置を正確に把握できないまま南西進を続け、岩場に接近したため、左舷船首方から岩場の返し波が船内に流入し、右舵を取った際、右舷側から海水が流入し、右舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、岩場など返し波の発生する可能性がある場所に接近しないように航行すること。・ 船長は、航行上の条件である夜間航行の禁止を守り、周囲の状況及び自船の位置が正確に把握できる日没までに帰港できるよう、早めに帰航を開始すること。・ 船長は、自船の位置を見失い遭難の危険を感じた場合や、事故が発生した場合は、速やかに海上保安庁へ通報すること。